

第12回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(和歌山大会)の報告

1. はじめに

8月10日(土)、11日(日)の2日間、国立大学法人和歌山大学において、第12回全国高等学校情報教育研究会¹⁾全国大会(和歌山大会)が、文部科学省や和歌山県教育委員会をはじめとして、多数の後援と協賛を受けて開催された。

本大会は、全国からの教員、大学、企業関係者等378名(主催者発表)の参加者で、例年以上の盛会となった。

2. 大会概要

【テーマ】「Next Stage

～次代の担い手を育む情報教育～」

【日時】8月10日(土)13:00～11日(日)15:30

【会場】国立大学法人和歌山大学(和歌山県和歌山市)

【主催】全国高等学校情報教育研究会

【共催】和歌山県情報教育研究会

【後援】文部科学省、和歌山県教育委員会 他

【大会 URL】<http://www.zenkojoken.jp/12wakayama/>

【プログラム】

○8月10日(土)

11:30～ 受付

12:30～ 全国高等学校情報教育研究会総会

13:00～ 開会行事(開会挨拶、来賓祝辞)

13:30～ ポスターセッション・企業展示

15:50～ ライトニングトーク

16:30～ 分科会

教育実践、研究成果等の発表・意見交換

4会場で各2件(発表20分、質疑5分)

※今年は分科会発表が2日に分かれていた

18:00～ 教育懇談会

○8月11日(日)

9:00～ 受付

9:30～ 分科会

4会場で各5件(発表20分、質疑5分)

12:00～ 昼休憩

13:00～ 基調講演

東京大学教授・慶應義塾大学教授

鈴木寛氏

演題「AI時代の教育」

14:15～ 講評・講演

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

教育課程調査官

文部科学省 初等中等教育局

情報教育・外国語教育課 情報教育振興室

参事官(高等学校教育)付 産業教育振興室

教科調査官 鹿野利春氏

15:00～ 閉会行事

3. 大会の様子

(1) ポスターセッション・企業展示

開会行事の後、会場を移動して24件のポスター発表と22社の企業展示が行われた。

今大会のポスター発表の中で一番多かったのは、プログラミングの授業に関連するテーマで、6件ほどであった。次期学習指導要領に向けて、いろいろな切り口で準備を進めている先生方の様子がうかがえた。

また、協賛企業による展示も充実していて、授業に役立つ情報の収集にも役立っているようであった。

(2) ライトニングトーク

約2時間のポスターセッション・企業展示の後、開会行事が行われた会場に戻って、分科会発表の内容について、一人あたり45秒という短い時間でプレゼンテーションする恒例のライトニングトークが行われた。今大会は一人あたりの時間が前回大会の半分ほどになってしまったが、工夫を凝らして、銅鑼が鳴るまで熱のこもった発表が行われた。



図1 大会会場と開会行事の様子



図2 ポスターセッションとライトニングトークの様子

(3) 分科会

分科会は、4つの会場に分かれ、1日目に8件、2日目に20件の発表が行われた。日頃の授業実践や研究成果等が発表されたが、その内容はプログラミングに関連する発表が8件、データの活用に関連する発表が4件、情報Ⅰの年間指導計画をテーマとした発表が2件など、次期学習指導要領への準備を見据えた実践や研究が多かった。数年前は、情報モラルに関する発表などが多かったが、情報に関する科学的な見方・考え方を重視した内容に変わってきていた。地元和歌山県の先生方の発表も3件あり、それぞれの会場で活発な質疑も行われた。

(4) 基調講演

東京大学教授・慶應義塾大学教授の鈴木寛氏から、「AI時代の教育」という演題で基調講演があった。OECDの教育スキル局のアドバイザーとして関わられている、OECD Education 2030 プロジェクトなどについて触れる中で、PISA調査では日本の学力は改善していること、学習時間は増えているがそれ以上にディスプレイを見ている時間が増えていることなどを取り上げ、広い意味で、情報との向き合い方を考えていかなければいけないと話された。

また、教育改革をしなければならぬ理由として、シンギュラリティの話やIoT・ロボットの幾何級数的な普及などについて話された。さらに、「VUCA (Volatility-Uncertainty-Complexity-Ambiguity = 変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)の時代と言われるこれからの大転換期には、PDCAサイクルは通用しない。前提条件がめまぐるしく変化し、計画を立て直さなければならなくなるので、これからはAAR (Anticipation-Action-Reflection = 見通し、行動、振り返り)のサイクルで、ある程度の見通しが立ったらすぐにやってみることが大切。作りながらバグを直して少しずつ完成に近づけていくようなプログラミングのデバックのようなもので、デバック主義と言っている。」とも話された。

最後に、「6月25日に文部科学省が発表した「新

時代の学びを支える先端技術活用推進方策」を一度ご覧いただきたい。これを縁に皆さんとよりよい情報教育を作っていきたい。」とまとめられた。

(5) 講評・講演

大会の最後に、文部科学省の鹿野利春教科調査官から、講評と講演が行われた。

講評の冒頭で、今大会は人数的にも内容的にも大成功である、と話された。講演では、まず、Society 5.0というキーワードに関連して、「狩猟社会と農耕社会の二つを比べただけでも必要な資質・能力は全然違う。時代が変われば必要なことも変わってくる。それをしっかり身につけていくことが重要である。」と話された。また、「想像力と創造力が大切で、想像力に創造力という力が添えられて現実としてできるようになる。世界に貢献できる人はそういう人ではないか。」と、カメラやセンサーによる無人レジ、自動運転の話や、人と近い距離で働くロボットの話など、例を挙げて話された。

その後、学習指導要領改訂の背景や育成すべき資質・能力の三つの柱について話され、学びに向かう力は実は態度だけでなく、態度+自己調整力が大事であるということや、問題の発見と解決や情報デザインについて具体的な例などを話された。また、情報科の教員も統計を勉強しましょう、技術・家庭科の教科書を読みましょうなどと話された。講演の後半では、情報Ⅰや情報Ⅱの内容を概観するとともに、高大接続改革のスケジュールなどにも触れられた。

最後に、先生方がそれぞれWebページを持ち、全国大会の資料とともにリンクを張って先生方の研究を出し惜しみせずにシェアして欲しい、とまとめられた。



図3 基調講演と講評・講演の様子

4. おわりに

次回の第13回大会は、令和2年8月20日(木)、21日(金)に、愛知県立大学で開催される。来年の大会も非常に楽しみである。

参考 URL

1)「全国高等学校情報教育研究会」, <http://www.zenkojoken.jp/>